

## 「八女福島の燈籠人形」公演（国指定重要無形民俗文化財）

1 開催日：令和元年9月21日（土）～23日（月・祝日）

※口開け公演 9月20日（金）20時00分

2 公演時間：①13時30分

②15時

③16時30分

④19時

⑤20時30分（※1回の公演時間 約30分）

3 芸 題：「薩摩隼人国若丸巖島神社詣」

（さつまはやとくにわかまるいつくしまじんじゃもうで）

### 《解説》

江戸時代の初め、薩摩守の若君・島津国若丸は戦での勝利とお家の安全を祈願するため家老を従えて安芸の宮島に鎮まる巖島神社に詣でました。巖島神社のひと際のどかな情景にひたっていた時、はるか前方より五色の水柱がたちのぼり二人の前に現れたのは巖島の尊い神の御姿でした。驚き喜ぶ二人をさらに祝福するかのように社殿の後方から雅楽の調べとともに見目麗しき弁財天の舞い姿も立ち現われました。巖島の神は戦での勝利を、弁財天は島津家の安泰を約束するかのようにともにご神霊を顕したのです。巖島でのご加護に深く感謝しつつ薩摩への帰途につきました。

4 開催場所：八女市本町 福島八幡宮境内

5 観 覧 料：無料

6 交通アクセス：八女ICから車で約10分

7 連絡先：八女市教育委員会教育部文化振興課 文化係 ☎0943-24-8163

### 8 概 要

「八女福島の燈籠人形」は、福島八幡宮「放生会」の奉納行事として、秋分の日を含む3日間上演されるからくり人形芝居です。当初、山鹿市・大宮神社から燈籠を譲り受け、江戸時代半ばに福島町民が独自の工夫をこらし人形の燈籠を奉納したことが始まりといわれます。当時、大阪方面で隆盛を誇った人形浄瑠璃の技術を採用し、現在の形態になったといわれています。

上演の舞台となる屋台は、3層2階建て組立式で、お囃子に合わせて華麗なからくり人形芝居が舞い踊ります。とりわけ人形の橋渡しや衣裳の早変わりなどが見どころです。

